



NISTEP定点調査の これまでとこれから ～10年を振り返って～

2015年12月8日
第8回政策研究レビューセミナー

文部科学省科学技術・学術政策研究所
科学技術・学術基盤調査研究室長
伊神 正貫

科学技術・学術基盤調査研究室(基盤室)の活動

- 科学技術指標
- 計量書誌学分析
 - 科学研究のベンチマーキング
 - 大学ベンチマーキング
 - サイエンスマップ
 - 大学下部組織レベルの分析(New)
 - ジャーナルに注目した分析(New)
 - 謝辞の分析(New)など
- NISTEP定点調査(科学技術の状況にかかる総合的意識調査)
- データ・情報基盤構築(大学・公的研究機関部分)
- ...

2015年に出された基盤室の成果

報告書種別・番号	報告書名	テーマ	発行日
調査資料-234	研究者が活躍できる環境をどう作り出すか？ —独創的な研究の芽を育み、その芽をのばす環境をどう作り上げればよいか— 一定点調査ワークショップ(2014年3月)より—	NISTEP定点調査	1月
NISTEP REPORT No. 161	科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2014)報告書	NISTEP定点調査	3月
NISTEP REPORT No. 162	科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2014)データ集	NISTEP定点調査	3月
調査資料-236	大学等教員の職務活動の変化 —「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」による2002年、2008年、2013年調査の3時点比較—	科学技術指標	4月
調査資料-237	論文データベース(Web of Science)と科学研究費助成事業データベース(KAKEN)の連結による我が国の論文産出構造の分析	計量書誌学分析	4月
調査資料-238	科学技術指標2015	科学技術指標	8月 (HTML版10月、 英語版概要11月)
調査資料-239	科学研究のベンチマーキング2015 —論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況—	計量書誌学分析	8月
NISTEP NOTE(政策のための科学) No. 15	NISTEP大学・公的機関名辞書の整備とその活用—大学下部組織レベルの研究データ分析に向けて—	データ・情報基盤	10月
データ公開	NISTEP大学・公的機関名辞書(ver.2015.1); 大学・公的機関名英語表記ゆれテーブル(Ver.2015.1)	データ・情報基盤	10月

本日の話の構成

1. NISTEP定点調査のこれまで(2006-2015)
2. 第2期NISTEP定点調査から分かってきた我が国の
科学技術やイノベーションの状況
3. NISTEP定点調査のこれから(2016-)

1. NISTEP定点調査のこれまで(2006-2015)

NISTEP定点調査とは

- **一線級の研究者や有識者**を対象とした、**日本の科学技術やイノベーションの状況**についての**意識調査**
- **毎年一回、同一のアンケート調査**を**継続**実施
(日銀短観の科学技術イノベーション版)
- **同一集団**が回答
- **2006年度**より開始

呼び方	実施時期
第1期定点調査	第3期科学技術基本計画期間中(2006-10年度)
第2期定点調査	第4期科学技術基本計画期間中(2011-15年度)

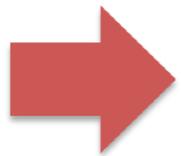
なぜNISTEP定点調査か

- 基本計画中に、科学技術やイノベーションの状況はどのように**変化**したのか
- 科学技術やイノベーションの状況は徐々に**変化**
→ **継続的な観測**が必要
- システムとしての**状況の理解** → **俯瞰的な状況把握**が必要
- 定量的な**把握が困難な状況**も存在
→ **研究開発統計**からは**把握しにくい状況**も**把握**が必要



NISTEP定点調査のアプローチ

- 一線級の有識者や研究者に対する継続した意識調査
- 基本計画に対応した質問項目の状況についての充分度を質問



一線級の有識者や研究者の認識の集約を通じて、科学技術やイノベーションの状況や変化を俯瞰的にモニタリング

(簡単に言うと)NISTEP定点調査は日本の科学技術やイノベーションの状態についてのヘルスマonitoring

モニタリングするもの =
科学技術やイノベーションの状況



研究人材



基礎研究



研究環境



産学官連携



イノベーション政策

科学技術基本計画の変遷(第3期～第4期)

第1期定
点調査

第3期科学技術基本計画(2006-2010)

- 科学技術の戦略的重点化(基礎研究の推進、「重点推進4分野」及び「推進4分野」、戦略重点科学技術)
- ポストドクター後のキャリアパス、博士号取得者のキャリアパス(産業界等での活躍促進、科学技術コミュニケーター)
- 大学の競争力の強化
- 政府研究開発投資の総額の規模を約25兆円

第2期定
点調査

第4期科学技術基本計画(2011-2015)

- 震災からの復興、再生の実現; グリーンイノベーション; ライフイノベーション
- 科学技術イノベーション、課題解決
- 社会と科学技術イノベーション政策をつなぐ人材の養成及び確保(リサーチアドミニストレーター等)
- 国民に支持される科学技術
- 政府研究開発投資の総額の規模を約25兆円

注: 第1期から第4期科学技術基本計画をもとに、発表者がポイントと考えた点を抽出したものであり、個人的な見解である。

第2期NISTEP定点調査(2011-2015)の調査対象者

① 大学・公的研究機関グループ(約1,000名)

- ・ 大学・公的研究機関の長
- ・ 世界トップレベル研究拠点の長
- ・ 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者
- ・ 大学・公的研究機関の部局や事業所の長から推薦された方

教授クラス
准教授クラス
助教クラス
各1名の計3名

② イノベーション俯瞰グループ(約500名)

- ・ 産業界等の有識者
- ・ 研究開発とイノベーションの橋渡し(ベンチャー、産学連携本部、ベンチャーキャピタル等)を行っている方
- ・ シンクタンク、マスコミで科学技術にかかわっている方
- ・ 病院長など

注1: 推薦は教授クラス、准教授クラス、助教クラス各1名の計3名を依頼。

注2: 産業界等の有識者は、科学技術政策関係の審議会、分科会等の有識者、日本経団連の各種部会への参加企業の研究開発・生産技術等を担当している執行役員クラスの方、第3期科学技術基本計画中の定点調査の企業回答者、中小企業の代表から選定。

大学グループ

- 大学システムの状況を把握する際の視点として、
各大学の研究活動の規模(日本国内における論文シェア)に注目
- 研究活動の規模によって、研究人材や研究環境などの状況に違いがあるかを把握することは分析の視点として重要

大学グループ	日本における論文シェア	大学名
1	5%以上	東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学(4大学)
2	1~5%	北海道大学、筑波大学、千葉大学、東京工業大学、金沢大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、日本大学、早稲田大学(13大学)
3	0.5~1%	群馬大学、東京農工大学、新潟大学、信州大学、岐阜大学、三重大学、山口大学、徳島大学、長崎大学、熊本大学、鹿児島大学、横浜市立大学、大阪市立大学、大阪府立大学、近畿大学(27大学から15大学を抽出)
4	0.05~0.5%	135大学から50大学を抽出

(出典) 文部科学省科学技術政策研究所、NISTEP Report No. 122 日本の大学に関するシステム分析

- 大学グループ別の分析結果を、そこに含まれる個々の大学についての状況の評価等に用いるのは不適切

質問と回答方法の例

若手研究者(39歳くらいまでのポストドクター、助教、准教授など、ただし学生は除く)の状況
貴大学や貴研究機関全体における状況をお答え下さい。

前回の回答: ✔

問1 若手研究者の数は充分と思いますか。

分らない 不十分 1 2 3 4 5 6 充分

変更理由欄: この1年間で、～などの面で進展が見られた。

前回の回答: ✔

問2 若手研究者に自立と活躍の機会を与えるための環境整備は充分と思いますか。

分らない 不十分 1 2 3 4 5 6 充分

環境整備として、テニユア・トラック制の導入、若手対象の競争的資金制度の拡充、新規採用時に研究を立ち上げる際のスタートアップ資金の提供等をお考えください。

変更理由欄:

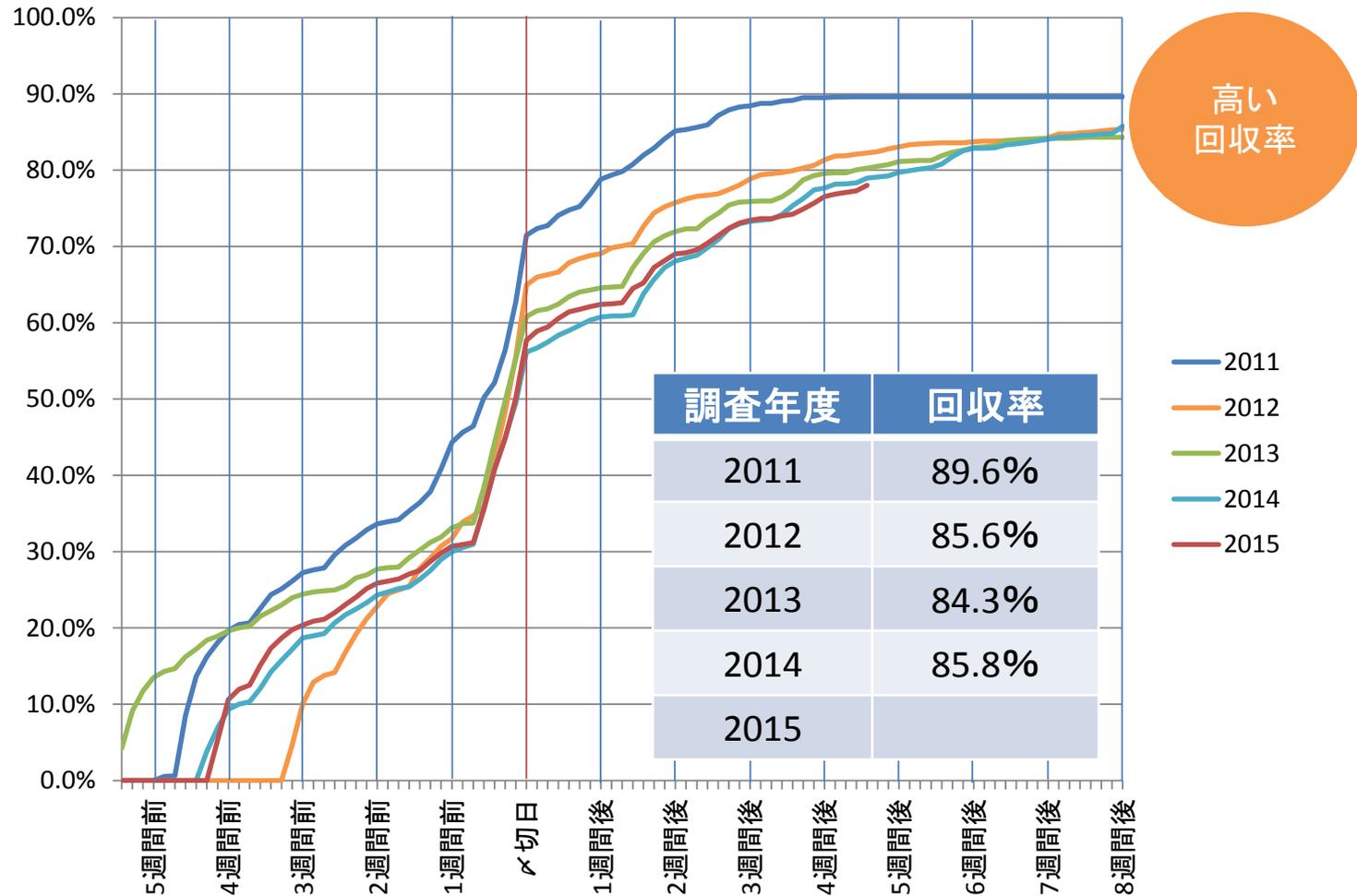
- 6点尺度による回答(定性的評価)を定量化し、比較可能とするために指数を求めた。

【計算方法】

① 6点尺度を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換。

② 上記の平均値を属性ごと(大学グループ別、大学部局分野別、職階別など)に集計

第2期NISTEP定点調査(2011-2015)の回収状況



調査実施補助： 一般社団法人輿論科学協会

2. 第2期NISTEP定点調査(2011-2015)から分かってきた我が国の科学技術やイノベーションの状況

NISTEP定点調査からみる我が国の科学技術イノベーションの状況変化

- NISTEP定点調査とは、一線級の研究者や有識者約1,500名(5年間固定)を対象とした継続的な意識調査
- 基礎研究の多様性など研究開発統計からは把握しにくい、日本の科学技術やイノベーションの状況について把握

(調査の特徴)

- 毎年一回、同一のアンケート調査を**継続**実施 (日銀短観の科学技術イノベーション版)
- 同一**集団**(2つのグループ)が回答
- **2011-15年度※**に毎年実施
- **第4期科学技術基本計画**に関する**57の質問+深掘質問**から我が国の**科学技術やイノベーションの状況**を**包括的**に把握

※ 第4期科学技術基本計画期間中

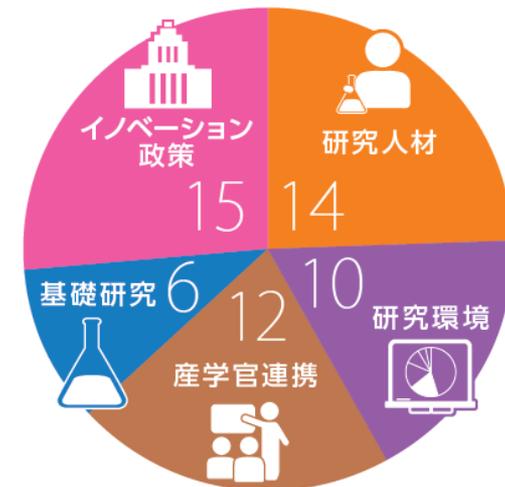
① 大学・公的研究機関グループ(約1,000名)

- ・ 大学・公的研究機関の長
- ・ 大学・公的研究機関の部局や事業所の長から推薦された方等

② イノベーション俯瞰グループ(約500名)

- ・ 産業界等の有識者
- ・ 研究開発とイノベーションの橋渡しを行っている方
- ・ シンクタンク、マスコミで科学技術にかかわっている方等

〈57の質問の内訳〉



一線級研究者や有識者約1,500名による第4期科学技術基本計画中(2011~2015年度)の我が国の科学技術イノベーションの状況変化についての意識



大学・公的研究機関における研究活動の基盤に対する危機感の増大

状況が悪くなったとの認識が多い質問(上位6)



57の質問から我が国の科学技術やイノベーションの状況を包括的に把握



イノベーション政策への期待感の増大・一部進展科研費の使いやすさやURAの育成・確保の進展

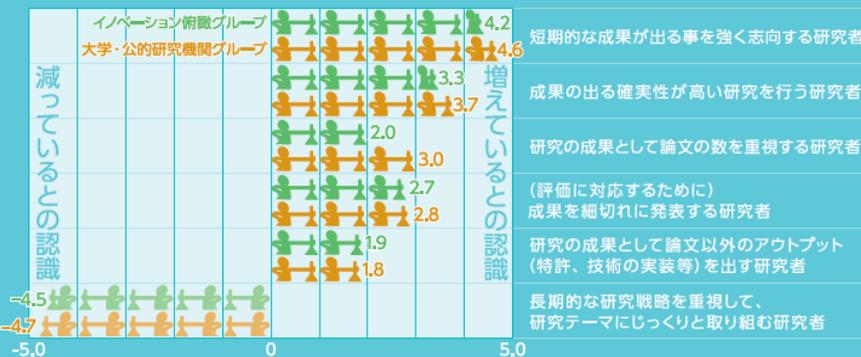
状況が良くなったとの認識が多い質問(上位6)



過去10年の大学や公的研究機関における研究の内容の変化



過去10年の大学や公的研究機関における研究者の行動の変化



回答者は2つのグループから構成(同一の回答者に毎年同じ調査を継続して実施)



イノベーション俯瞰グループ(約500名)

- 産業界等の有識者
- 研究開発とイノベーションの橋渡し(ベンチャー, 産学連携本部, ベンチャーキャピタル等)を行っている方
- シンクタンク, マスコミで科学技術にかかわっている方
- 病院長など

大学・公的研究機関グループ(約1,000名)

- 大学・公的研究機関の長(82大学, 26公的研究機関)
- 世界トップレベル研究拠点の長
- 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者
- 大学・公的研究機関の部長や事業所の長から推薦された方(82大学, 26公的研究機関)



注1: 推薦は教授クラス, 准教授クラス, 助教クラス各1名の計3名を依頼。注2: 産業界等の有識者は, 科学技術政策関係の審議会, 分科会等の有識者, 日本経団連の各種部会への参加企業の研究開発・生産技術等を担当している執行役員クラスの方, 第3期科学技術基本計画中の定点調査の企業回答者, 中小企業の代表から選定。



イノベーション政策への期待感の増大・一部進展 科研費の使いやすさやURAの育成・確保の進展

状況が良くなったとの認識が多い質問（上位6）



状況に問題はない
(指数 5.5 以上)

ほぼ問題はない
(指数 4.5 以上～5.5 未満)

不十分
(指数 3.5 以上～4.5 未満)

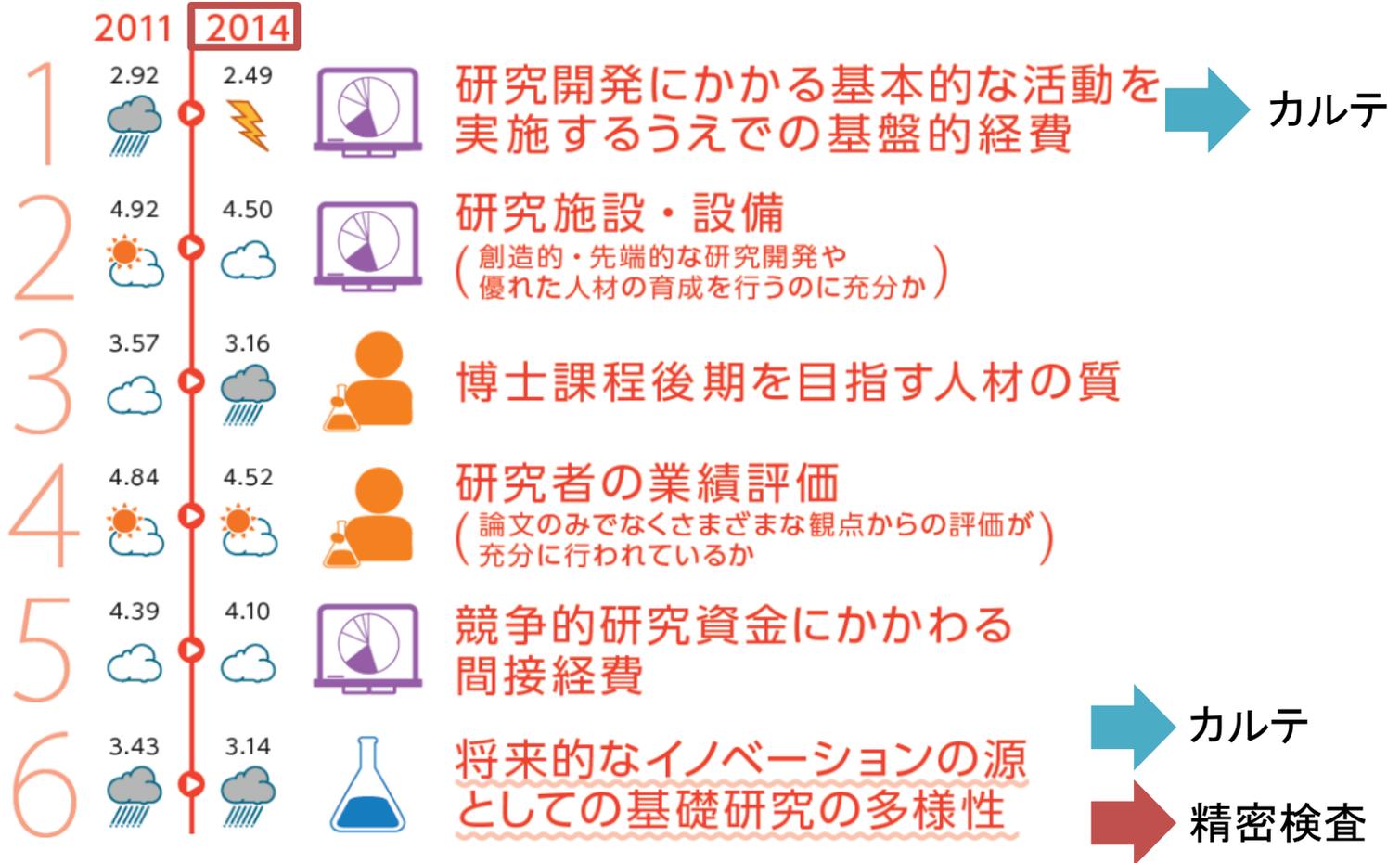
不十分との強い認識
(指数 2.5 以上～3.5 未満)

著しく不十分との認識
(指数 2.5 未満)



大学・公的研究機関における 研究活動の基盤に対する危機感の増大

状況が悪くなったとの認識が多い質問（上位6）



状況に問題はない
(指数 5.5 以上)

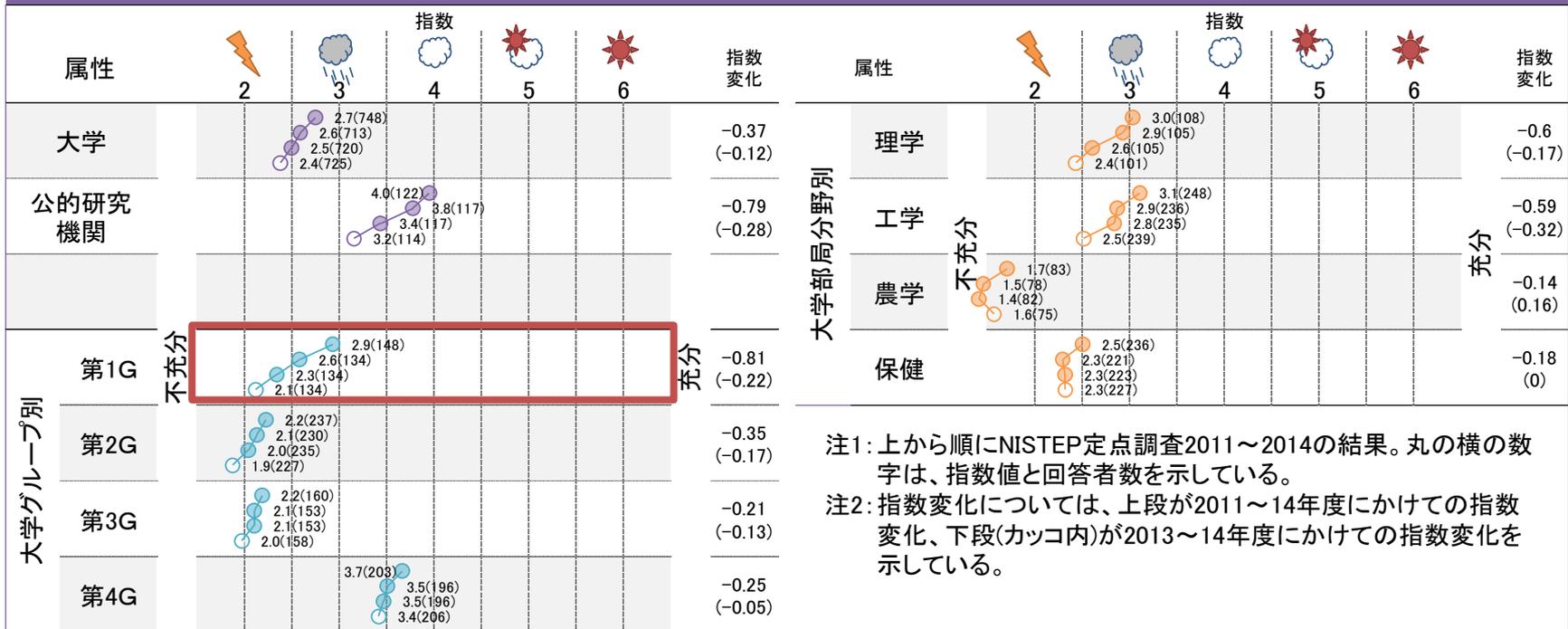
ほぼ問題はない
(指数 4.5 以上～5.5 未満)

不十分
(指数 3.5 以上～4.5 未満)

不十分との強い認識
(指数 2.5 以上～3.5 未満)

著しく不十分との認識
(指数 2.5 未満)

Q1-18: 研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえで、現状の基盤的経費(機関の内部研究費)は充分と思いますか。



充分度を上げた理由

- 学部内の無駄削減の効果で、基盤的経費が増加
- 国の財政事情や使う側の能力を考えると妥当
- 研究を行っている者に厚く配分するように方式を変更
- 年々減少しているが、研究費は自分で獲得するというスタンスのため、現在の学内での経費配分に不満はない

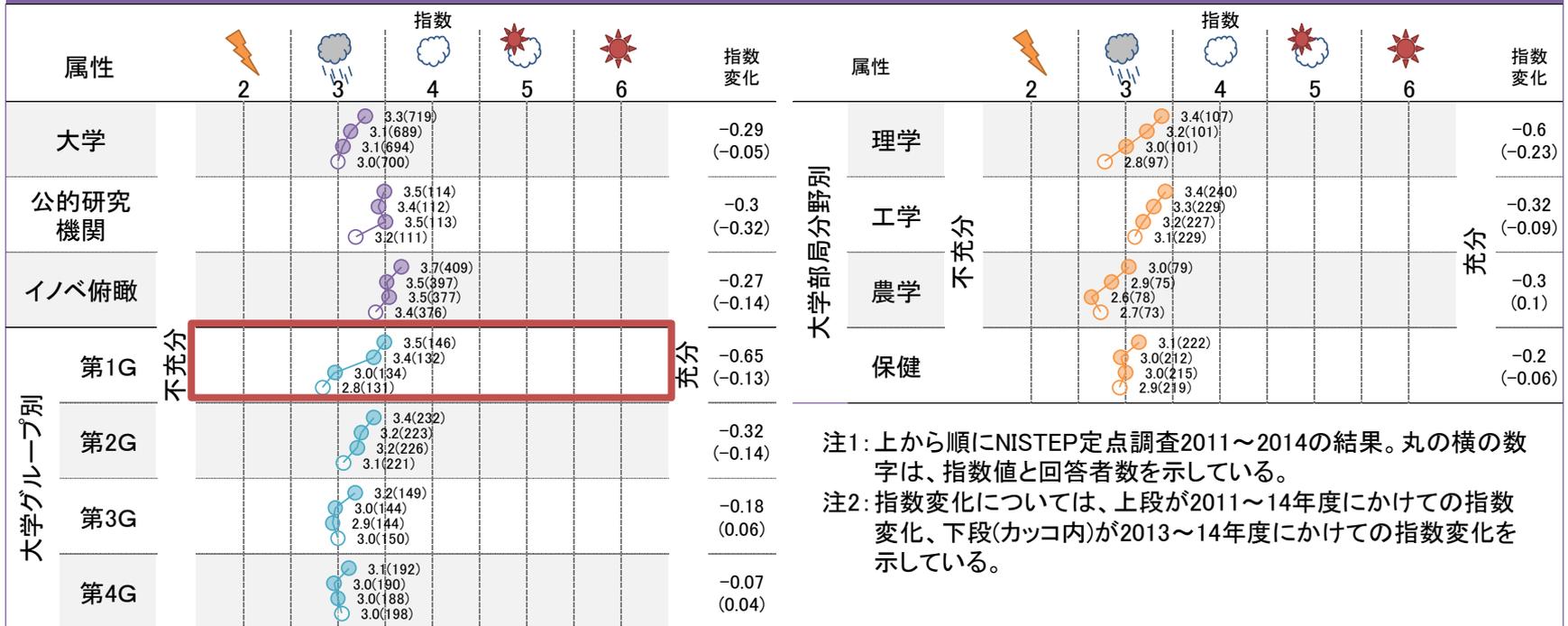
充分度を下げた理由

- 人件費確保のため、経常的に配分される研究費は減少
- 運営交付金の減額や電気代の値上げにより、基盤的経費は大幅に減少
- 教員への研究費の支給が突然なくなった
- 基盤的経費だけでは研究できない
- 外部資金が獲得できないと研究がほぼ止まってしまう

カルテに相当

- ▷ 報告書中では、全ての質問について、同じような形式で分析を実施
- ▷ データ集には、さらに詳細な集計結果を収録

Q2-22: 我が国において、将来的なイノベーションの源としての基礎研究の多様性は、十分に確保されていますか。



注1: 上から順にNISTEP定点調査2011～2014の結果。丸の横の数字は、指数値と回答者数を示している。

注2: 指数変化については、上段が2011～14年度にかけての指数変化、下段(カッコ内)が2013～14年度にかけての指数変化を示している。

充分度を上げた理由

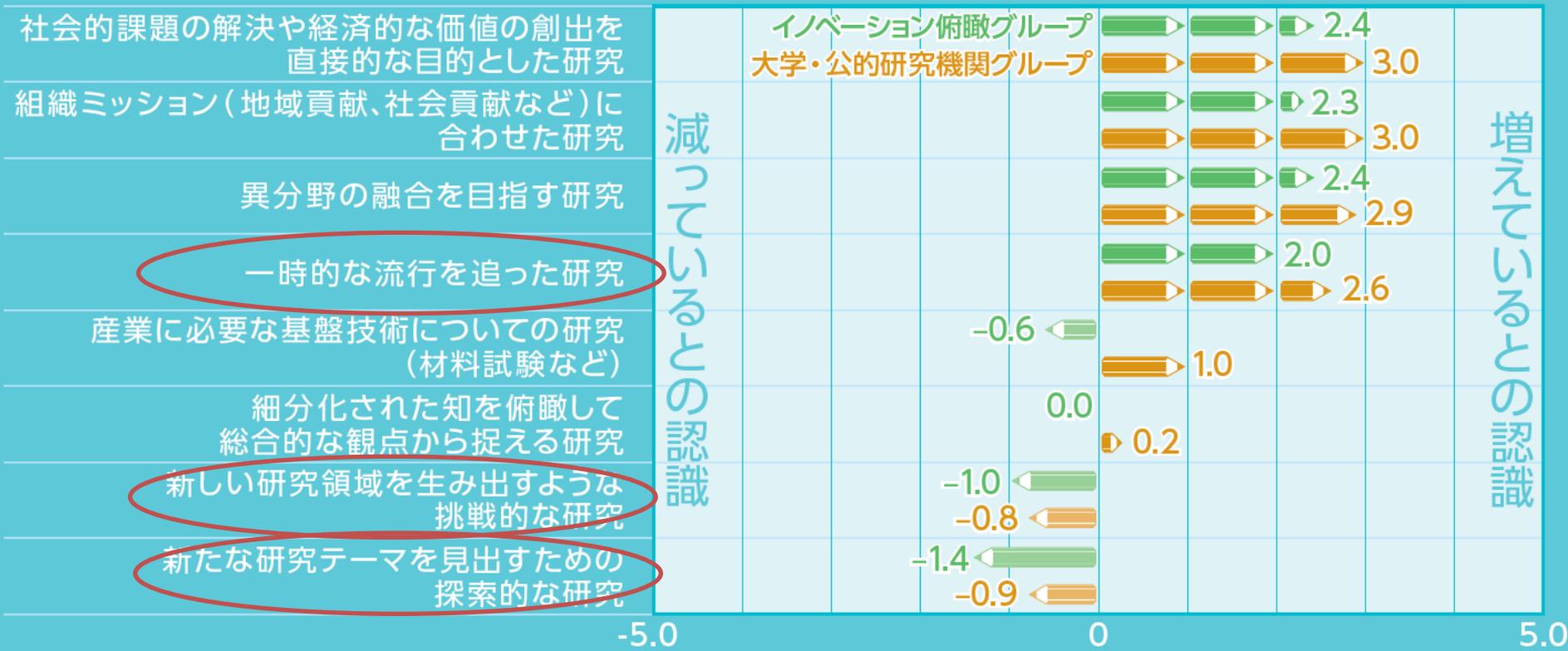
- 諸外国と比べると多様性は確保されているように感じる
- 多様な分野での研究が国際的に評価されている
- 画期的な基礎研究成果に触れる機会が増えた

充分度を下げた理由

- 特定の研究に対して研究費が過度に集中している
- 応用研究、実用化研究、大型プロジェクト研究に予算が集中している
- 基礎研究への支援は相対的に減少している
- 研究費獲得の必要性が増し、実績のある分野の研究が優先される
- 短期的、流行を追った研究が増えている
- 旧来の学問体系、権威主義により固定されている
- 萌芽段階の小さい基礎研究への予算配分が少ない

第2期NISTEP定点調査(2014年度)の深掘調査

過去10年の大学や公的研究機関における 研究の内容の変化



注: 質問票では、2005年頃と比べた数の変化について、大幅に減っている、減っている、変化なし、増えている、大幅に増えているから選択することを求めた。上記のデータでは、大幅に減っている(-10ポイント)、減っている(-5ポイント)、変化なし(0ポイント)、増えている(5ポイント)、大幅に増えている(10ポイント)として、指数化した結果を示している。

精密検査に相当

- ▷ 過去のNISTEP定点調査から明らかになった課題の深堀
- ▷ 基本計画期間中に、新たに認識されるようになった課題の分析

第2期NISTEP定点調査(2014年度)の深掘調査

過去10年の大学や公的研究機関における 研究者の行動の変化



注： 質問票では、2005年頃と比べた数の変化について、大幅に減っている、減っている、変化なし、増えている、大幅に増えているから選択することを求めた。上記のデータでは、大幅に減っている(-10ポイント)、減っている(-5ポイント)、変化なし(0ポイント)、増えている(5ポイント)、大幅に増えている(10ポイント)として、指数化した結果を示している。

第4期科学技術基本計画中に、イノベーション政策への期待感が増加し、一部については具体的な進展

- イノベーション政策の進展やそれらへの期待感が増大から、イノベーション政策にかかわる質問の多くで指数変化がプラス。
- 重要課題を達成するための戦略や国家プロジェクト：「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」「革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)」「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」
- 規制の導入や緩和等：「再生医療新法」「薬事法の改正」「燃料電池自動車に関連した規制の緩和」

科研費の使いやすさやURAの育成・確保に進展

- 科研費の使いやすさ：ほぼ問題無いとの認識。NISTEP定点調査2011時点と比べて指数が大きく上昇。
- リサーチ・アドミニストレーターへの育成・確保の状況：指数が上昇傾向にあり、第4期科学技術基本計画中に進展。ただし、指数の絶対値については、著しく不十分との認識が継続。

大学や公的研究機関における研究活動の基盤についての危機感の増大

- 基本的な活動を実施するうえでの基盤的経費の状況
 - 指数が最も低下
 - 外部資金を増加させることで、競争的な環境を醸成(過去10年)
 - 国立大学の運営費交付金は長期的に減少
 - 研究者や機関が互いに切磋琢磨することで、我が国全体のパフォーマンス向上を意図
 - 運営費交付金の減少が、基本的な活動に影響を与えているとの強い憂慮
 - 特に若手研究者の雇用形態に大きな変化

大学や公的研究機関における研究活動の基盤についての危機感の増大

- 望ましい能力を持った学生が博士後期課程を目指していないとの認識の増加
 - 第1期定点調査(2006～2010年度)でも同様の傾向
 - 10年前に博士後期課程に進学した学生は、今は30代半ば
 - 博士課程後期に進学する学生の質の低下 → 研究者の質の低下？
 - 博士課程学生の教育を通じて、研究を担う人材の質を確保しないと、我が国の研究力に長期的な影響を及ぼす可能性
- 基礎研究の多様性や独創性が充分ではないとの認識が増加
- 研究時間を確保するための取り組みについては、著しく不十分であるとの認識

3. NISTEP定点調査のこれから(2016-) (以下のスライドは現時点での構想を示したものです)

これまでの実施状況

- 2期10年間にわたって調査を実施
- NISTEP定点調査の結果は、科学技術政策の立案のための基礎資料として各種審議会で活用(次ページ参照)
- 科学技術白書においても活用され、新聞などのメディアにも掲載



- NISTEP定点調査は、定量的データのみで示すことのできない科学技術の状況変化や、科学技術政策やイノベーション政策の効果をモニタリングするのに有効なツール

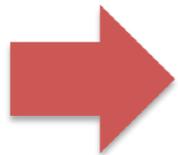
活用状況(2014年4月～2015年8月の活用実績)

審議会	開催回(日付)	資料名
科学技術・学術審議会学術分科会 学術の基本問題に関する特別委員会	第7期第4回(2014/4/14)、第7期第5回(2014/5/7)、第7期第9回(2014/9/30)、第7期第11回(2014/12/9)	「学術研究の推進方策に関する総合的な審議について」審議経過報告(案)参考資料、等
科学技術・学術審議会学術分科会	第56回(2014/5/26)、第57回(2014/8/27)、第58回(2015/1/27)、第59回(2015/3/10)	「学術研究の推進方策に関する総合的な審議について」中間報告、最終報告 参考資料、等
科学技術・学術審議会学術分科会 学術情報委員会	第11回(2014/5/28)、第12回(2014/6/20)	大学の革新的な機能強化・イノベーション創出のための学術情報基盤整備について(審議会まとめ)、等
ジャーナル問題に関する検討会	第3回(2014/5/30)	日本発ジャーナルを取り巻く環境について
科学技術・学術審議会総会	第47回(2014/6/3)、第48回(2014/10/31)、第50回(2015/2/13)	NISTEP定点調査からみた我が国の科学技術の状況報告～研究者・有識者への継続的な意識調査から見てきたこと～ 等
科学技術・学術審議会 総合政策特別委員会	第1回(2014/7/17)、第2回(2014/8/6)、第3回(2014/9/10)、第4回(2014/10/3)、第5回(2014/10/30)、第6回(2014/11/25)、第9回(2015/1/20)	NISTEPの最近の報告書からみた我が国の科学技術の状況報告、「今後の人材政策の在り方について」関連データ集、等
中央教育審議会大学分科会 大学院部会(委員懇談会)	2014/8/26	科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2013) 報告書(抜粋)
科学技術・学術審議会人材委員会	第69回(2014/8/27)、第71回(2015/1/27)、第72回(2015/4/21)	人材委員会最終提言(案) 関係データ集、等
総合科学技術・イノベーション会議 科学技術イノベーション政策推進専門調査会	第14回(2014/10/2)	第4期科学技術基本計画フォローアップ(案)関係データ集
総合科学技術・イノベーション会議 本会議	第5回(2014/10/22)、第10回(2015/6/18)	第4期科学技術基本計画フォローアップ(案)、「第5期科学技術基本計画に向けた中間取りまとめ」関係資料
総合科学技術・イノベーション会議 有識者会合	2014/11/20、2015/1/29、2015/3/26、2015/4/2	サイエンストクスからの第5期科学技術基本計画への提言、第5期科学技術基本計画の検討に向けた主な論点についての関連資料、等
総合科学技術・イノベーション会議 基本計画専門調査会	第1回(2014/12/4)、第2回(2015/1/22)、第3回(2015/2/19)、第5回(2015/4/9)	我が国の中長期を展望した科学技術イノベーション政策について～ポスト第4期科学技術基本計画に向けて～(中間とりまとめ案)、等
競争的研究費改革に関する検討会	第1回(2015/2/20)、第4回(2015/4/14)、第7回(2015/6/4)、第8回(2015/6/10)	研究成果の持続創出に向けた競争的研究費改革について(中間取りまとめ(案))関係データ集、等
産業構造審議会産業技術環境分科会 研究開発・評価小委員会	第6回(2015/3/6)	第5期科学技術基本計画の検討に向けた主な論点についての関連資料
科学技術・学術審議会学術分科会 研究費部会	第8期第3回(2015/6/10)、第8期第4回(2015/7/6)、第8期第5回(2015/7/27)	研究成果の持続創出に向けた競争的研究費改革について(中間取りまとめ)関係データ集、科研費における挑戦的な研究への支援、等
科学技術・学術審議会先端研究基盤部会 研究設備共用プラットフォーム委員会	第2回(2015/8/3)	次期共用プラットフォーム形成に向けた今後の展開について(参考データ集)

(調査担当者が思う)NISTEP定点調査の凄いところ



- NISTEP定点調査のように継続的(毎年)かつ網羅的に科学技術やイノベーションの状況をモニタリングしている意識調査は世界的にも例が無い
- 良質なパネルデータ(高い回収率、厳選された回答者)
→ 質問票調査は1回だけのものが多い中、変化まで追跡
- 膨大な(文庫本約21冊分)自由記述(研究者や有識者の熱く、切実な思い)
→ ヒアリングでこれだけの情報を得るのは大変(不可能)



派手さは全く無いけど、日本オリジナル
(ただし、情報のリッチさは圧倒的)
もっとポテンシャルを引き出せるはず



挑戦(登山)は続く

第3期NISTEP定点調査(2016-2020)に向けた方向性

① 調査の継続性を保つ仕組みの構築

- 多くの質問では、状況が改善するまでに一定の時間
→ 5年間を越えた継続的な状況の観測も必要
- 回答者の継続性を保ちつつ、長期の時系列観測が可能となるような回答者集団や調査方法の検討

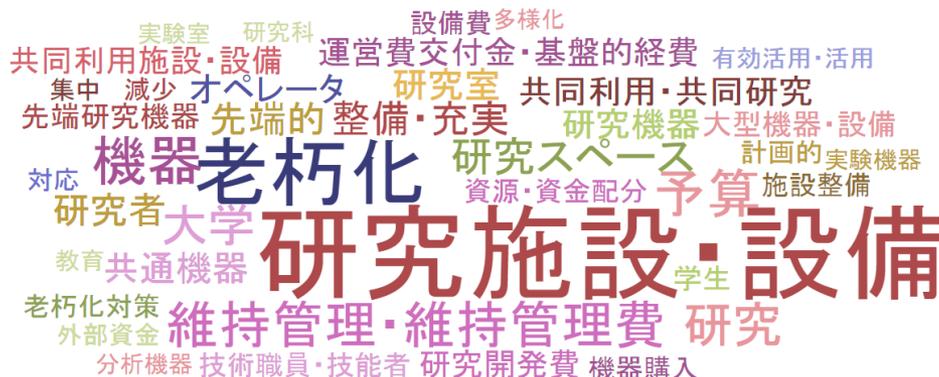
② 分析をより深化させるための工夫

- 自由記述の一層の活用
- 質問間の関連性の理解や可視化
- 定量データとの相互補完

② 分析をより深化させるための工夫 自由記述の一層の活用

- NISTEP定点調査では、自由記述によって回答する質問も一定数存在
- その文量は、NISTEP定点調査2011-2014を合わせて、文字数210万字（文庫本約21冊分）→ 結果を解釈する上で有用な情報
- 自由記述をテキストマイニング等により自動処理することで、**新しい論点**や**課題(weak signal)**をいち早く検知できるような**方法論**を開発することが出来れば、それらが実現した**インパクトは大** → **挑戦者募集中**

〈研究施設・設備の状況についての自由記述に対する
テキストマイニングの例〉



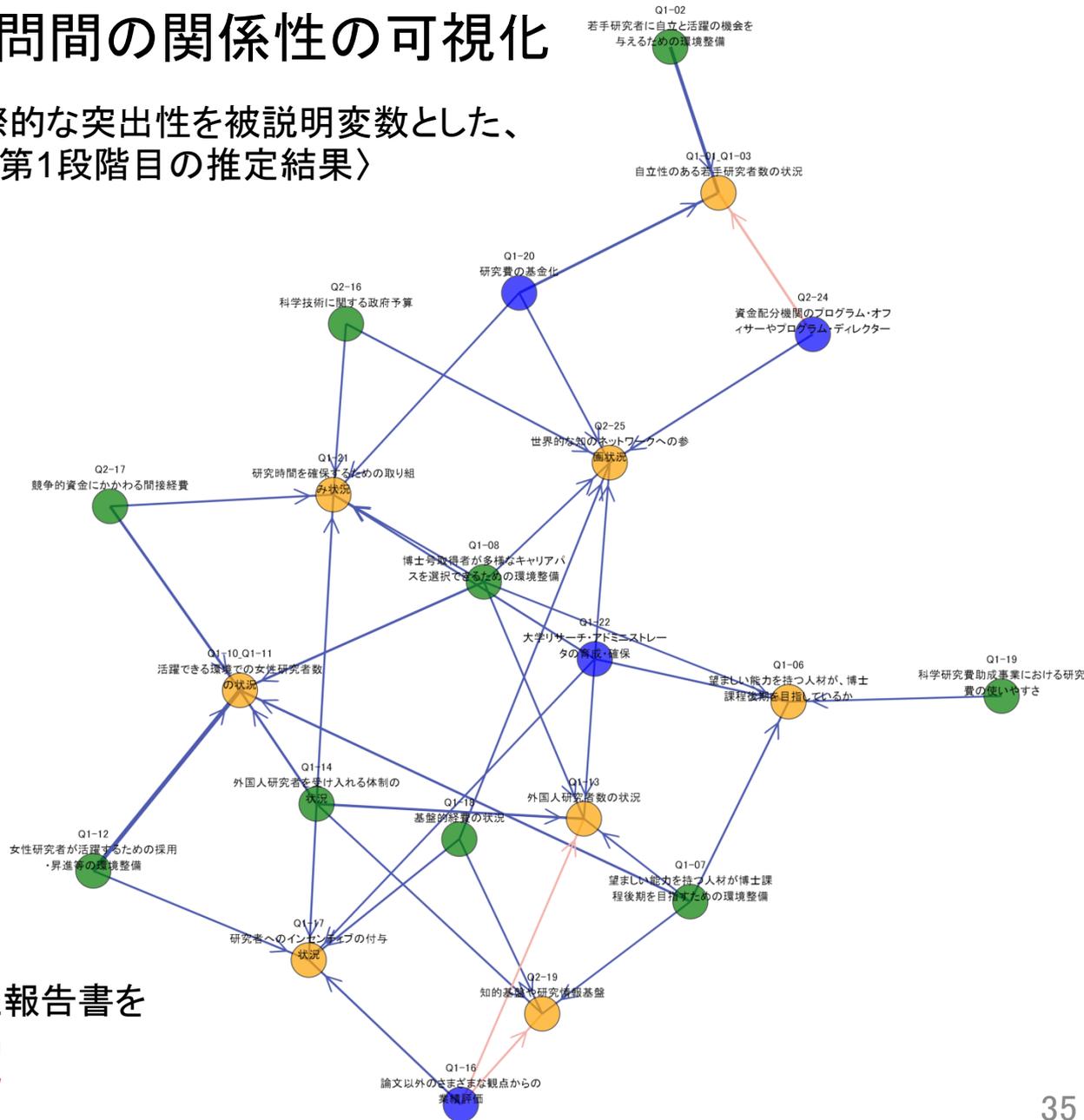
NISTEP定点調査2011から2014の自由記述は以下のサイトで公開中
<http://www.nistep.go.jp/research/scisip/nistep-teiten-data>

② 分析をより深化させるための工夫 質問間の関連性の理解や可視化

- NISTEP定点調査の結果は多数活用されている。しかし、施策にかかわる質問が部分的に切り出して用いられる場合が多数
→ 短冊形活用
- 実際には、NISTEP定点調査の質問は、相互にかかわりあっているはず
- ある質問の状況を改善したいと考えたとき、それに関連する質問にはどのようなものがあるのか、どのようなプロセスを経て目的の状況が改善されるのか
→ 質問間の関連性の理解や可視化

NISTEP定点調査の質問間の関係性の可視化

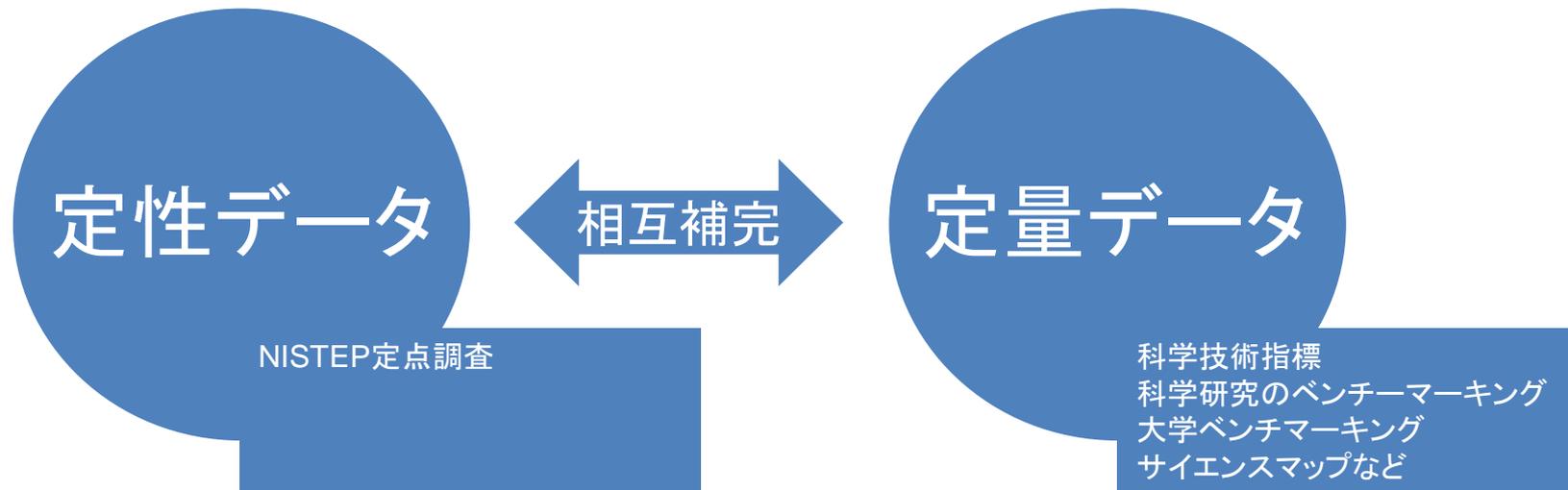
〈基礎研究の多様性・独創性・国際的な突出性を被説明変数とした、操作変数法による2段階推定法の第1段階目の推定結果〉



- **本分析の結果**をまとめた報告書を12月中旬に公表予定

② 分析をより深化させるための工夫 定量データとの相互補完

- 国レベルのマクロな統計とNISTEP定点調査との関係。報告書で適時、統計データ等を参照することで議論
- 大学部局分野や大学グループによって、研究人材、研究環境、産学官連携、基礎研究に対する異なる認識
- **マイクロレベルで定量及び定性データを補完的に用いることで、科学技術やイノベーションにおけるプロセスの理解が深まると考えられる**



第3期NISTEP定点調査に向けたスケジュール

時期	実施内容
2015年度中	第3期NISTEP定点調査の調査設計 1) 調査票設計の検討 2) 調査対象者の検討 3) 分析をより深化させるための工夫の検討
2016年春～夏	調査対象者への打診・決定 調査票の決定 調査準備
2016年秋～12月	第3期NISTEP定点調査第1回目の実施

2020年に向けて、
来年度から第3期NISTEP定点調査スタート

最後に

- NISTEP定点調査の実施に当たって、貴重な時間を割いて調査にご協力くださった研究者及び有識者の方々に深く感謝申し上げます。